

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300048		
法人名	株式会社 ケアリング		
事業所名	グループホーム 竹の庵		
所在地	〒814-0142 福岡県福岡市城南区片江1丁目20番10 TEL092-865-5444		
自己評価作成日	平成 23年07月02日	評価結果確定日	平成23年08月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年07月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

竹の庵では入居者様の外出への取り組みに力を入れています。日常は、インストラクターの指導による有酸素運動を実施し、体力維持を図っています。4月には、その成果として、1泊2日の温泉旅行が出来ました。また、昨年に続きプロ野球観戦(8月・10月)も予定しています。温泉旅行を機に、個別の小旅行を計画しています。入居者様の思い出の地にご家族様とともに訪れ、その方の歴史を実感することで、スタッフ自身の介護観の向上を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街の一角に、木造2階建ての2階部分に、デイサービス併設のグループホーム 竹の庵がある。大黒柱や梁に天然木をぜいたくに使ったりリビングルームからは、利用者と職員の軽妙な会話が聞こえ、生活リハビリや、インストラクターによる有酸素運動を取り入れた暮らしは、利用者の健康維持に優れた効果があり、家族からの評価は高いものがある。また、こだわりの無農薬の食材やお米で調理したご馳走を、利用者と職員が、同じテーブルで美味しく食べる様子は楽しそうで、栄養バランスのとれた食事をほぼ完食する事で、心身機能の維持、向上に確実に繋がっている。管理者は、地域住民との交流に努め、防災講座に多くの方が参加し、協力体制も始まっている。今後は地域密着型ホームとして、子供から、高齢者まで幅広く気軽に立ち寄れるグループホームとして、活躍が期待される「竹の庵」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で、竹の庵における介護に対する理念を話し合い、共有できるようにしています。スタッフは勤務前に毎回唱和し、日々実践できるようにしています。現在、各スタッフ自ら理念を創造し、共有し合えるような新しい理念を作成しています。	「生活の心地よさは、生きる心地よさ」という理念を元に、「優しい笑顔と思いやりで、生きる喜び作り」を目標に掲げ、毎日唱和することで日々意識しながらの介護を実践している。現在は、職員間で話し合い、現場の声を優先した理念の作成に取り掛かっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方より招待を受け、訪問したりと交流を持っています。また、馴染みの美容室に行ったり、地域の催し物に参加したり、ホームでのイベントへの招待したりと地域との相互交流をしています。	開設3年目であるが、隣人宅から「庭の花と屋内の絵を覗きませんか」と招待を受けたり、ホームのイベントに地域の方々への参加を呼びかけたりして、交流が始まっている。管理者は、ホームを地域の人達が寄り合える場にしたいと考え、さらなる交流を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の際に店舗のスタッフとの会話の中で説明だったり、入居者が声かけられた地域の方に説明をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3水曜日に定期開催をしています。市役所、地域包括、民生員、近隣の方、ご家族、入居者さま全員が参加しています。一方通行の会議にならないよう心がけ、様々な提案を実現しています。	会議を定期的で開催し、各委員から情報、意見、質問など活発に出され、ホームから現状や今後の課題などを報告している。出された意見は職員間で検討し、出来るだけホーム運営に活かせるよう積極的に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターとは、運営推進会議において意見交換しています。市役所とは、電話での相談をしたり、相談会に参加したり、運営に関する意見交換を随時行っている。	開設3年目で、問題や疑問が発生した時、行政窓口にご相談したり、運営推進会議参加の包括職員と意見交換するなど、行政との連携も始まっている。また、行政主催のグループホーム相談会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、3ヵ月毎に担当者会議の中で検討し、主治医・ご家族様に報告している。また、外部研修に参加し、その内容を全スタッフが理解できるように環境作りをしている。	担当者会議で検討し、利用者の安全のために必要な場合、家族と相談し、承諾を得て、期限をきって実施することもあるが、原則として身体拘束をしないケアの実践を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を他のスタッフに報告する機会を設け、全スタッフが理解できるように環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その内容を他のスタッフに報告する機会を設け、全スタッフが理解できるように環境作りをしている。	管理者やケアマネージャーが、外部研修に参加し、職員会議で報告し、理解してもらえるように努力している。	制度に関するパンフレットや資料を用意し、職員全員で理解した上で、利用者、家族に説明し、活用のための橋渡しができる体制が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族様に対して、契約書・重要事項説明書を基に説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来所時に、お話しする機会を設け、そこで得られた意見はプランに反映させています。又、家族会での提案を改善事項として実現しています。時折、入居者さまからの希望もありその場合は、個別に対応しています。	年3回、家族会を開催し、家族同士で話し合う機会を設け、提案を頂き、検討し、ホーム運営に出来るだけ反映できるよう取り組んでいる。また、家族来訪時や電話などで、個別で聞き取りをしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、運営上の問題点や改善してほしい点を挙げてもらっています。すぐに改善できる点はその場で決定し、その後は進捗状況を確認しながら、改善しています。	毎月の職員会議で意見を出し合い、要望などを聞き取り、出来るだけ職員に反映できる体制を目指している。また、管理者は、常日頃から、職員が気付きや意見、要望を言いやすい雰囲気作りを心がけ、風通しの良い職場環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日を確保し、労働時間の短縮から図り、業務内容の改善を通して、以前よりも随分と改善しています。 外部研修を充実させ、スタッフが介護技術・知識の習得しやすい環境を整備している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当事業所では、採用に当たっては何の区分もありません。高齢のスタッフの採用や経験のないスタッフの登用も行っています。その中で、経験の有無に関わらずお互いがカバーしあいながら働けるように配慮しています。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢によって制限することはない。幅広い年齢、経験の職員が補い合い、学びあいながらチームワークを発揮している。管理者は、職員の感性を大切にしながら、研修、処遇などを充実させ、一人ひとりが能力を発揮し、生き生きと働けるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ケアリングでは、入居者様に対して出来る限り、個人の意思を尊重して対応しています。人生の先輩として敬いの念をもって接しています。	理念を唱和したり、高齢者に関する外部研修を受講するなど、利用者の人権に対する取り組みが始まっている。	人権教育に関する学習会を実施しているが、記録がないので、資料と記録の整備をし、職員全員で閲覧できる体制作りが望まれる。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・計画作成担当者が中心となり、介護技術、その都度、アドバイスをしたり、社外研修制度を設け、自発的に研修を受けられる態勢を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、2ヶ月に1度、他施設の管理者との定期交流会に参加しています。また、グループホーム協議会に参加して定期的に行われる会合・講演会に参加しています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とお話の中から、生活史を読み取り、グループホームで何をやりたいのかを考え、実践しています。管理者、計画作成担当者だけでなく、スタッフも指導の下、信頼関係の構築ができるような体制を整えています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時だけでなく継続的に、ご家族様のご意見を伺い、ご本人様の負担にならないように配慮しながら、出来る限り実施しています。また、進捗状況は、来所時や電話にてご報告しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者を中心に、管理者・スタッフがサービスを提案、ご家族様と相談の上、本人様にとって最良の対応ができるよう努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所では、ここで生活されている方主体で、出来ない部分を職員がお手伝いするという考えで介護を行っています。そのため、ご本人の出来ることを常に考えながら、なんでも一緒に仕事をできるように心がけています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	我々職員は、あくまでもいち介護職員であり、家族にはなりえないということを自覚しています。ご本人様やご家族様の関係を第一に考え、彼らの希望に添えるように考えています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅が近所で、帰宅願望の強い入居者様には、時々、自宅に戻っていただいたり、行きつけの美容室に行ってもらっています。また、知人に会いに行くことサポートをしています。	利用者の希望を尊重し、友人、知人に会いに行ったり、自宅へ帰ったり、馴染みの場所に同伴する等、関係継続の取り組みをしています。また、近所の居酒屋に、利用者と職員が一緒に行くこともある。今後は、利用者の生まれ育った所に行くなど、個別の外出も考えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士での会う合わないがあります。ストレスになるような場合は、環境を整えたりしています。しかし、縫い物や食器拭きなどは手分けをして、出来るだけ多くの方にしていただけるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた入居者の方に関しては、職員からケアに関して相談をうけました。ここでの経験などを詳しく説明していません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の意向を第一に、希望を叶えるべく配慮しています。また、積極的に意見を述べられない方に関しては、生活状況を踏まえ、新たな方法を提案しながら、安心・安楽に過ごせる様に努めています。	管理者と職員は、常に笑顔で利用者と向き合い、会話の中で思いや意向を把握している。家族と相談しながら、利用者のしたい事、行きたい所、食べたい物などを把握し、その実現に向けて積極的に支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各個人の生活史から、どのようなことが好みなのかを把握し、日々の余暇活動や生活活動に取り入れています。個々の歴史を知ることで、介護サービスの向上に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の中に特記事項として、不穏状態における別紙に経過記録として記入しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当スタッフが中心となり、入居者のケアのあり方について話し合います。管理者・計画作成担当者はフォロー（家族・主治医の意見を反映させる）し、介護計画を作成しています。	毎月の職員会議の中で、利用者のケアに関するモニタリングを行い、ケアマネは家族と連絡を取り合い、意見・要望を聴き、職員間で話し合い、介護計画を作成している。また、利用者に状態変化があった場合は、その都度家族の承諾を得て、主治医のアドバイスを受け、計画の見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の中に日々変わる入居者様の状態を把握し、短期的・長期的な計画の変更を記入しています。管理者・計画作成担当者だけでなく、変化に気づいた職員が記入し提案しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には、病院受診などはご家族様がお連れしていらっしゃいますが、その時の状況により、職員同伴で行ったりしています。医療との連携では、家族の意向を伺い、病院などの紹介を行っています。また、限定的にシフトを融通し、退院後のケアにあたったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園での花見をしたり、近隣の方がお花を持ってきていただいたり、お庭に招待をして頂くこともあります。また、公民館の行事にも積極的に参加しています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所では、24時間往診の可能なかかりつけ医と提携しています。また、常勤の看護師がおり、主治医との連携を図っています。その他の病院を受診される場合は、ご家族様との相談の上、希望される病院に、かかりつけ医を通じて受診できる様に支援しています。	利用者、家族の希望をもとに、かかりつけ医を選択し、24時間の医療連携体制が出来ている。また、ケアマネージャーはベテラン看護師で、日々の利用者のケアチェックを行い、利用者の、ちょっとした変化も見逃さない細やかな支援体制がある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者が、看護師資格を有しており、他職員から挙げられる体調の変化や日常生活での変化をまとめ、月2回の往診時にかかりつけ医に報告し、適切な医療的な指示を受けています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必ず、常勤看護師が同伴しています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関しては、竹の庵としての対応を、家族会の中でご家族様に対して説明しています。また、状況に応じて個別に主治医、家族と相談しながら、本人様やご家族様の意向に沿えるようにしています。	重度化、終末期に向けた方針について、家族会で利用者、家族に説明し、承諾を頂いている。ホームで出来ること、出来ないことを明確にし、方針を共有し、利用者がいつまでもホームで暮らし続けることができるよう支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療事故・緊急時のマニュアルを整備しており、手順通りに行えるようにしています。また、個別に、消防署等で行われる研修に参加しています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	東日本大震災を受け、災害対策を抜本的に見直し、災害時の対応をスタッフ全員に周知しています。又、近隣の方たちにも呼びかけ、防災講座を主催し、リレーションを図っています。	たくさんの地域の方々の参加によって防災講座を実施し、防災に関して地域との協力関係が出来つつある。また、夜間を想定した避難訓練を実施し、災害時に備えての非常食、飲料水などの用意も万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が長年生きてこられた人生の先輩として、尊敬の念を持ちながら接しています。そのことを踏まえながら、あまり堅苦しくないように声かけするようにしています。トイレ誘導の際など、他入居者様に配慮をしながらさりげなく促しています。	職員は、常に笑顔で利用者に対して穏やかに接し、家族のような関係を築き、利用者の人権を尊重し、プライバシーを守り、尊厳のある暮らしの支援をしている。また、個人の記録は、見えない場所に保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意見を積極的に言える方は自由に訴えて頂いています。その他の方は、職員のほうから、出来るだけ自発的な意見が出るような声かけに努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	優先順位を常に考え入居者様が求める時には、どのようなことでもそのことを優先にするようにしています。その為、業務分擔や日々の流れを柔軟に変更しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が忘れていた時など、さりげなく勧めます。入居者様同士でも身だしなみに関して注意をしあったり、散髪したり、新しい服を着たりしたときなどは声をかけるようにしています。また、外出のさいには、化粧をしていただくようにしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、力を入れており、バランスの取れた献立の提案から、食事準備（配膳や調理）片付けなどは役割として積極的に行われています。また、食事は楽しい時間と認識して頂く為、食後はしばらく団欒の時間としてくつろいでいます。	「しっかり食べる、楽しく食べる、安心して食べる」をモットーとし、こだわりのお米と食材を使って栄養のバランスがとれた美味しい食事は、利用者の大きな楽しみであり、元気の源である。利用者は、職員と一緒に、配膳、下膳、後片付けを行い、和気藹々とした雰囲気である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者様の食事摂取量の把握、個別の水分摂取量を把握し、脱水症状にならないように配慮しています。水分摂取が不十分な入居者様には日常の中で水分を職員が促すようにしています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアは実施しています。自力・半介助・全介助と区別していますが、その時々に応じた介助をしています。週1回歯科往診のがあり、口腔内のケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁傾向にある入居者様に関しては、毎日排泄チェックを行っています。定期的な排泄誘導を行い、出来るだけ失禁する前に排泄が行えるように促しています。また、個別の状況により、リハパンを中止したり、夜間のみにししたりし、できる限りリハパンの使用を減らしています。	管理者は、自立支援に向けた取り組みの中で、排泄の自立を重視している。失敗する前にさりげない声かけや誘導することが、介護の力であるとの考えから、排泄パターンを把握し、利用者の自信に繋がる排泄の自立支援を実践している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立作成の段階で、野菜中心としたニュー作りを心がけています。野菜は1日350グラム以上の摂取を目安としています。薬も併用していますが、出来る限り運動や水分補給、腹部マッサージ等で、自然排便があるように取り組んでいます。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週に2~3回の割合で実施しています。その他は、柔軟に対応しています。拒否がある場合は順番を遅らせたり、翌日に延期したりと入浴自体がストレスにならないよう配慮しています。	入浴は、基本的には週3回であるが、利用者の都合や健康状態などを優先し、自由に入浴できるよう支援している。また、入浴を拒まれる方に対しては、タイミングをずらしたり、職員が交代して声かけを試み、楽しい入浴になるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、リビングで過ごしていただくように促してはいます。しかし、居家で休みたい方に関しては、夜間の睡眠に支障がないように配慮して、過ごしていただいています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬をする前に、必ず確認をしています。新たに、薬が増えたり減ったりする場合は服薬前後の状態をかかりつけ医に報告するようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活されていた習慣をここでも続けていただくようにしています。喫煙・晩酌も自由にしていただいています。洋服の仕立てをしていた方には、裁縫全般を担っていただいています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1度は全員で外出を計画しています。外食であったり、花見、野球観戦などが挙げられます。また、日々の中でも、気分転換に散歩や、食材の買い物、個人の買い物等外出の機会を設けています。	外食、ドライブ、散歩、買い物、花見、そして、一泊の温泉旅行や野球観戦など、利用者の希望を聴きながら、楽しい外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員がしていますが、個人の買い物の際には、見守りのながらご本人がレジで精算できるようにしています。個人的に金銭を持たれている方はいらっしゃいませんが、希望されるときにはご家族様に相談後、買い物に出かけています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻回に電話を訴える入居者様には、ご家族様と相談の上、職員の携帯電話にかけていただき、落ち着いていただいています。しかし、定期的にご家族様から電話をしていただくようにしています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清掃は毎日しています。環境も転倒を招くような障害物を取り除いています。緑のカーテンを作り、入居者様と一緒に水やりをすることで季節感を感じていただいています。	天然木をふんだんに使用した、木の香りが漂う木造2階建ての住宅は、落ち着いて家庭的な雰囲気である。天窓からの柔らかな採光や、へちま、朝顔などを壁に這わせたグリーンカーテンで季節感がある暮らしを演出している。また、階段、廊下のいたる所に絵画が飾られ、穏やかに過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座る位置については、入居者様の状況に合わせて、気の合う利用者様同士が過ごせる様に配慮しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、出来るだけ居室の家具類は入居者様の使い慣れた家具を置いて頂く様にしています。	居室は、家族と相談しながら、利用者の思い出の品や使い慣れたものを持ち込み、自宅の延長のような暮らしが出来るよう、細かいところに配慮し、居心地よく暮らせる環境である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内には全ての壁面に手摺りが付いており、それを持ちながら、回遊できるようにしています。また、手摺りを持ちながら、足上げ運動をしたり、エレベーターで降り、昇りは階段を使つての歩行訓練もしています。		